
16番 松原 隆之助 議員

議長（中西 康雄君）

通告順9番 松原隆之助議員の発言を許可します。

16番（松原 隆之助君）

私は限界集落対策について、町長にお伺いをいたします。

町長は、「大杉谷地域は清流宮川の源流部であり、大台町の原点でもあると考えており、大杉谷地域に元気を出していただかなければ、大台町に元気が出ないと考えており、そのため、大杉谷出張所に地域づくり予算と権限を与えるとともに、担当職員を増員する。」と、本年度町長施政方針及び主要事項説明で述べられており、4月1日から実施されています。

限界集落とは、過疎化などで人口の50%が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になった集落のことを指すと言われております。現在の大杉谷地域は65歳以上の高齢化率は、本年度4月現在で66%となっています。

町長は、「行政主導では限界もあるので、地域の方々と一緒になって、元気の出る方法をともに考えていきたい。」と述べられていますが、町長は増員された職員に、特にどのような施策に重点を置いて対処するよう指示をされているのか、また、現在はどのような活動をされているのか、伺います。

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

町長（尾上 武義君）

それでは、松原議員の集落対策についてお答えをいたします。

本年度の施政方針及び主要事項説明でも述べさせてもらいましたように、清流宮川の源流部であります大杉谷地区を元気にしたい、あるいは源流に元気がないと大台町全体に元気が出ないと考えまして、4月から職員を2名増員し4名体制にするとともに、予算と権限を有する課長級職員を配置したところでございます。

2006年の国土交通省の調査によりますと、過疎地域を抱える全国775市町村に属する6万2,000余りの集落のうち、高齢者、いわゆる65歳以上が半数以上を占めている集落が7,873集落と12.6%を占めているところでございます。また、草刈りや祭り、あるいは冠婚葬祭といったこれまでの集落で実施をしてきました行事などの継続が、困難となっている集落も2,917集落と4.7%になっております。すでに大杉谷地区は65歳以上の高齢化率が66%と非常に高くなっておりまして、早急な対応が必要であると考えております。

まず、増員した職員に、どのような施策に重点を置いて、対処するように指示しているのか、また、現在どのような活動をしているのかというご質問でございますが、職員には、まずは地域の皆様の声を十分聞いてくるように、指示を出しております。高齢化が進んだ大杉谷地区では、地域の皆様と行政が一体となった取り組みが、今まで以上に大切になってくるものと考えております。地域の皆様が今どのようなことを思い暮らししてみえるのか、地域や行政に何を求められているのかなど、いろいろお聞かせ願いたいと思っております。

具体的には、役場のお知らせや、なぜ大杉谷出張所が増員されたのかなどを説明し、困っていることはないのか、あるいは今の行政サービスに不満はないか、活性化に向けた提案のないかなど、いろいろお聞かせていただいております。また、幅広い意見を求めるために、年齢別やグループ、あるいは団体なども今後ご意見を伺ってまいりたいと考えているところでございます。

5月初旬から、岩井地区を皮切りに、今までに40人程度の聞き取り調査が終わったところでございます。十分この時間をかけてございまして、1日に3名が限度でございまして、この調査が終了するのは9月の後半ぐらいになる見込みでございまして、聞き取りの結果は、外部から専門家なども招き、いろいろな角度から十分に分析するとともに、短期、中期、長期に分けた地域の活性化対策プランを、地域の皆様とともに策定してまいりたいと思っております。

この中で、地域の皆様が自ら実施できること、あるいは行政が中心となっていくこと、また、NPOなど外部の協力者を入れていく必要があることなど役割分担も考えながら、できるものから順次実

施してまいりたいと思っております。

この聞き取り調査は、自然学校にも協力をさせておりますが、その理由につきましては、行政職員だけでは偏った聞き取りになることを避けること、また、改めて自然学校の活動を地域の皆様にご理解いただきたいと、さらには今年度予定をしておりますプロジェクトを実施するにあたり、民泊の開業や、あるいは自然体験等の指導員、そして地域資源の掘り起こしをお手伝いいただけないかなど、あわせてお願いしたいと考えたからでございます。

今年度は、このように地域の皆様の声を十分お聞きし、地域の皆様と行政の職員、さらには専門家が一緒になって考えて、活性化策を見出す1年になるものと思っております。

聞き取り調査以外の取り組みとしまして、大杉谷地域で活動してみえる団体やグループなどに参画いただき、大杉谷課題会議、これは仮称でございますが、こういった課題会議を設定する予定でもございます。この会議では、聞き取り調査などで見えてくる地域の問題を議論したり、課題を掘り下げるため先進地調査を実施したり、あるいはできることは自ら実施したりと、いろいろやっていただこうと考えております。最終的には課題会議として提言をまとめていただきたいなと、こう思っているところでございます。

次に、地域の皆様と大杉谷の出身者の皆様が、ともにこの地で集える仕掛け、交流会などございますが、これも考えていきたいと思っております。何をやるのか、どうやって周知するのか、何もまだ決まっておりませんが、十分検討するよう指示しているところでございます。

このように、多くの皆様から貴重な意見をちょうだいし、その中から課題を抽出し、地域でできること、行政がお手伝いできること、あるいはNPOなど第三者機関にゆだねる必要があることなど、いろいろな方法で対策を講じてまいりたいと考えております。

超高齢化社会の対策にはIターンやUターンの受け入れなどという施策もございますが、地域の皆様のご理解や受け入れ体制の整備など、多くの課題を解決する必要がございます。このあたりは、今後関係機関や専門家を交え十分に議論していきたいと考えております。以上、答弁といたします。

議長（中西 康雄君）

松原議員。

16 番（松原 隆之助君）

地域への各戸への聞き取り調査に、自然学校の職員と同行されて調査をされているとお聞きしましたが、私の家へも来ていただきました。日ごろから自然学校の職員の皆さん方は、地元に住んでおるといこともあたりしますし、非常に親切で、また住民の方にも信頼がもう十分ございますので、これからもいろんなことに自然学校の職員の方に、仕事の支障のない限りいろいろ協力をいただいて、ご協力いただくようにしていただければと思っております。

それから、大杉谷地域は確かに過疎化は進んでおりましたが、それに追い打ちをかけたのが、平成16年9月29日の集中豪雨による未曾有の災害であったと思います。家が流されて故郷を離れた方々も多くございますが、人口の減少以上に宮川や支流の谷の荒れ方、大杉溪谷を経て大台ヶ原への登山道路の閉鎖、宮川ダム湖の船の定期便の運休、災害前は無数に飛んでいました蛸が地域からほとんど姿が消え、ほたるの里公園も流出し祭りもできなくなったことなどは、住民の方々の過疎感、寂しさも非常に多く出ていると思っておりますので、大台ヶ原の登山道は、千尋までは復旧の見通しがついてきたようですので、期待をしていきたいと思っております。

ほたるの里公園は、町長は復旧をされると言われておりますが、現在の状況では元の公園に復旧するには、公園側の岸辺も対岸の岸辺も金の網で袋ですんかな、あれに入れて高こうもう真っ直ぐ積み上げてあります。そんなことから、カワニナは、岸辺に草やとか木が生えていないと生息をしないとと言われておりますので、ここで飼ってもらっておる人も放流をする、どうという話も出ておるんですけども、それは今やってもいろんな知っておる人に聞きますと、樹木というんかな、何にもその生えておらんところへは放してもなかなか増やすよりも、消滅していく危険があるというようなことを言われておりますので、このことについてもお伺いしたいと思っております。

また、ダム湖の船の運航ですが、これはオールシーズンは無理としましても、春、秋の観光シーズンだけでも運航はできないか、新しい地域おこしのことももちろん大事ですけども、これまでいろいろやってきました、この実績のある事業のやっぱり復旧というのですかな、それは一番皆さんも望んでおりますし、そのことについて町長の考えをお伺いいたします。

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

町長（尾上 武義君）

はい、確かに松原議員おっしゃられますように、元の姿には全然戻っていないと、こういうことでございまして、宮川のあの土砂の堆積につきましても、もう口を開いたら、あの土砂を何とかせえ、何とかせえというようなことで言っておるんです。ただ、この土砂につきましてもですね、砂利採取であれば、その業者さんが取っていくということで、そこから本当になくなるんですが、県が予算を付けて土砂を除去しようとなりますと、どこかへ土捨場をつくらんならんということになります。

そうすると、その場所が本当に少なくなってきたと、こういうことでいくらか設定ができたにしても、本当にこう雀の涙程度の土砂置き場しかできないというようなことで、それをまたこの大台町から外へ出していくとなるとですね、それまた往復でものすごい経費がかかるというようなことで、今度は土砂の採取量が本当に少なくなる。採取というよりも除去量が少なくなるということで、本当にこれ痛し痒しのところで、悶々とやらせてもらっておるということです。

そういうことで砂利採取についてもですね、しっかりと申請が上がったらもうすぐに認めて、早いとこ取ってというふうなことで、その程度は言っておりますが、ただ、この景気がですね、下がり加減できておるといふようなことの中で、高速もどんどんどんどん向こうへ行っておるといふようなことで、コンクリを使う事業というのはまたまた減ってくるというふうなことの中で、これからのその砂利の需要はですね、どれくらいあるのかというふうなことになりますと、やや不透明というふうなことです。

ですので、業者さんも「今しっかり取ってもな」といふようなことにもなってますんで、非常にまた難しいことでもございますが、とにかくその土砂はそこから取ってもらうようにというふうなことで、一緒になって言っておるところでございます。これは当然継続してやっていかなあかん。そしてまた完全に昔のように戻らないかもわかりませんが、およそは戻ってくるような形でですね、取り組んでいかねばならないということは、強く思っているところでございます。

また、登山道につきましても1億7,000万円ほどの補正が付いてきまして、2億円ちょっとの規模になりますが、それで平等堯あたりの吊橋も改修していこうと、こういうことになってきますんで、残るのは七ツ釜上流から光岳の分ですね、これがまだ環境省と、それから県との間できちっと話し合いがなっていないというふうなことです。これらの調査にはぼつぼつ入ってくると、こういうふうなことでもございますんで、これも加速度的にですね、対応していただけるように、一生懸命になって

努めていきたいというふうに思っております。

で、ほたるの里でございます。これは私も災害当初からですね、ほたるの里は絶対復活するぞとそういう思いで、今もいささかも変わっておりません。先だって全員協議会で少しお話をさせていただきました中山間地域総合整備事業ですね、これは85%の高率補助です。この中でその何ができないかと、ほたるの里できないかというようなことで思っております。

今、土砂があれ少し高く積み上げた状態になってきておりますんで、あれをもう少し削れと、1m 50ぐらいは削って、もう少し低くして、利用しやすいような形にせえということで、もうすでに3月の末にですね、県のほうには申し上げて、人事異動で次の引き継ぎに来られた方にも一緒に立ち会わせて、そういう状況になるようにということでは言っているところでもございます。

ただ、蛭がですね、以前のように飛ぶことになると、自然河川の中ではまだまだ少し難しいのかなと思います。餌になるカワニナがいくらあったとしても、今の土砂の状況で少しの雨で流されると、こういう状態にもなりますし、護岸の状態もご案内のような状態というようなことで、なかなか生息しにくいことになるのかなと思っているところでもございますが、まずはこのほたるの里の復活を目指しながらですね、対応していく必要があるだろうと、こう思っているところでもございますんで、今しばらくお待ちをいただきたいと思っております。

また、観光船の運航につきましてもですね、1つは廃船して整理をしていくと、こういうことにしておるわけなんですけど、新しい船につきましてもですね、鋭意これ考えていかなあかんと思っております。数年先に、数年と言ってももう10年の15年ことじゃないんですが、3年、4年ぐらいの間には登山道も復旧できるんじゃないかなと、こう思っているわけなんですけど、それを待つのではなく、今でも申されましたように春、秋なんかでも結構その観光船を利用したい方がお見えにもなるようですし、あるいはフォレストピアもその1つの受皿というようなことで、お客さん呼び込んでそこで走らせるというふうなこともやっておるわけなんですけど、そういうような意味でも重要でございますので、これも近いうちに何とか対応できないか、今度の経済対策なんかできたらなという思いを持っておるわけなんですけど、そういう中で対応をとりまとめていきたいなと、こう思っておりますんで、ひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

何にしましても、こういったその基盤的なものを仕上げる中でですね、これでひとつ元へ戻ったと、こういうことになるわけなんですけど、やはりこれだけの高齢化した皆さんが、昨日も廣田議員さんに申し上げたんですが、やはり地域の方が元気をするという、そのことが一番大事ですし、生きがいのあるような形ですね、皆でその地域活動に取り組めるような事柄は何なのかと、そういったようなことも探しながらですね、やっていかなあかん。それは福祉のことであれ、環境のことであれ、ある

いは産業振興のことであれ、安全安心のことであれ、いろんなところで皆で協働して、できる部分が
多々あるのではないかなと思っております。

生活に密着したところからですね、いろんな課題も引っ張りだしながら、対応してまいりたいなど、
こう思っておりますんで、これからいよいよ正念場と言いますか、その時期を迎えてくると、こうい
うことになろうと思いますが、ひとつまたよろしく願いをいたしたいと思います。

議長（中西 康雄君）

松原議員。

16 番（松原 隆之助君）

2 番目に集落支援員や地域おこし協力隊について質問いたします。

町村に集落支援員、地域おこし協力隊の設置が推進されていますが、当町は活用される予定がある
のか、予定があるのであれば、どのように活用されているのか、伺います。

議長（中西 康雄君）

尾上町長。

町長（尾上 武義君）

それでは、2 問目のお答えをいたします。

集落支援員、あるいは地域おこし協力隊についてでございますが、どちらの制度も多少の差異はあ
るわけなんです、いずれも総務省が立案した制度でございます、一定期間生活支援や農林業の応
援など、各種の地域協力活動に従事し、かなうことなら定住していただくというねらいを持った制度

でもございます。

集落支援員制度の導入につきましては、この大杉谷出張所費の中に、当初から予算化させていただいておりまして、6月からの導入を予定しておりましたが、現場からは地域の事情にも詳しく、ヒアリングの能力も高い自然学校の職員と、町民の皆さんの聞き取りを行ったほうが良いとの判断もございましたので、今はこの形で進めているところでございます。ある程度地域の課題が見えてきましたら、集落支援員制度を活用しながら、より問題を深く掘り下げ活性化策を見出していきたいと考えております。

高齢化社会におけます集落対策は、そう簡単に解決できるものではございませんし、ある程度時間をかけ、そしてまた予算も投入するなど、実現可能なものから着実に推進してまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いをいたしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（中西 康雄君）

松原議員の一般質問が終了いたしました。

以上で、一般質問を終わります。

散会の宣言

議長（中西 康雄君）

お諮りします。

議事の都合、議案調査のため、6月17日を休会としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ声あり）

議長（中西 康雄君）

異議なしと認めます。

したがって、6月17日を休会とすることに決定しました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。

次回は、6月18日、木曜日、午前9時より再開いたします。

皆さん、お疲れさんでございました。

（午後 2時 22分）